

衛生学

助 教：朱沁暉 伊藤弘明 細川まゆ子

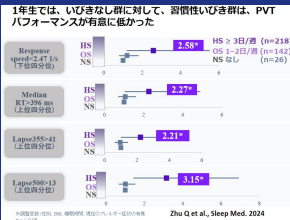
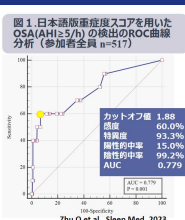
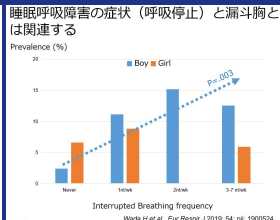
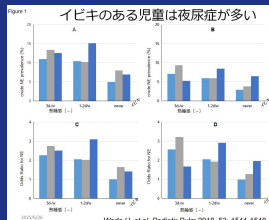


主な研究テーマ

小学生における睡眠呼吸障害と不注意・多動に関する疫学研究

<調査概要>

愛媛県松山市、福岡県福岡市、東京都文京区、東京都東大和市、東京都武蔵村山市、東京都江東区の小学生を対象に、睡眠呼吸障害とそれに起因する不注意・多動等の問題行動との関連について研究を進めている。



医師および医療従事者の勤務に関する研究

<調査概要>

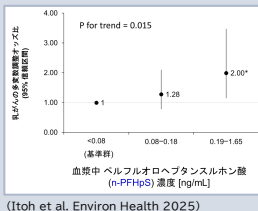
医療従事者の過酷な勤務実態を踏まえ、本研究では医師、看護師、理学療法士を対象に、健康確保措置および覚醒度を客観的に評価する手法として精神運動覚醒テスト(PVT)を用い、勤務中の覚醒度を客観的に評価できるかを検証した。医療従事者の働き方改革および健康増進に資する研究を進めている。



環境汚染物質のがん疫学研究

<調査概要>

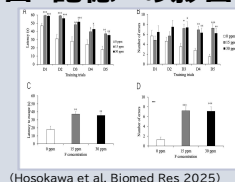
環境汚染物質、特に有機フッ素化合物(PFAS)の健康影響を調べるために、ブラジル人女性を対象とした症例対照研究を実施し、血漿中PFAS濃度と乳がんリスクとの関連を解析した。



胎児期フッ素曝露による学習・記憶への影響

<調査概要>

飲料水中の慢性的な胎児期低濃度フッ素摂取が脳機能に与える影響を、ICRマウスを用いた行動試験と神経伝達物質測定により検討した。



共同研究

睡眠制限と覚醒度及び行動・生理学的状態との関連に関する研究

(順天堂大学大学院医学研究科・放射線診断学講座と共同研究)

<調査概要>

一晩の睡眠制限が覚醒度(PVTパフォーマンス)および脳の生理学的指標の日内変動に与える影の経時的変化を探索的に評価する研究を進めている。

国際共同研究



Marshall University
David Gozal
Chairman of
Child Health



University of Pennsylvania
Mathias Basner
Professor of
Department of Psychiatry



Imperial College London
Peter Barnes FRS
Professor of National
Heart and Lung Institute